



民主主義って何だ！ 安倍政権を終わらせよう  
今年もよろしく願います

函館平和委員会会長 徳永 好治

正月明けの8日〜12日の5日間は、沖縄に行ってきました。そのような憲法にしていこうとが人間の仕事である。」

和を考えるツアー”の参加です。内容の濃い充実した旅で、沖縄の不屈の精神を自分の魂に宿す、そんな学びの旅でした。民意に従わず民意をないがしろにする政治というもの

に、対峙し不屈の精神を持ち続ける民衆の過去と現在の姿に感銘しました。

今改めて民主主義って何だ？と問い返しています。昭和30年刊行された佐藤功の書『憲法と君たち』が昨年10月に復刻新装版になったので読みました。その中で、次の言葉が胸に響いてきます。

「人間は憲法を、『人民の、人民による、人民のための憲法』にするようにと今まで努力してきたということになる。

これからはもう一つ、憲法を国民のための政治・憲法とする国民の仕事であることなんだと納得します。

物事は多数決で決めることが民主主義であると簡単な言葉で表します。しかしこのことは民主主義の一面である

と知るべきです。確かに日本国憲法の前文で「日本国民は、正当に選挙された国会における代表者を通じて行動し」とあり、議会制民主主義が建

前になっっています。が小選挙区制や議員の得る有権者数(1票の価値)の大きな格差

そして選挙活動の自由規制は国民による政治を逸脱しています。また安倍政権の数ま

その国会運営や沖縄、原爆再稼働や戦争法の成立などに見る民意の押さえこみは国民による国民のための政治といえ

ません。民主主義が成立するためには、情報が公開され活発な議論や表現の自由が保障され少数意見にも耳を傾ける

ことが民主主義の土台です。政権が悪いことをしたら国民が声を上げて止める、行動することも民主主義です。シールズの若者が国会前で「民主主義って何だ?」「これだ!」と呼応する。そのこれだ!とは「自分の行動だ!」という民主主義の担い手の表示なのです。又、辺野古や高江の非暴力の行動も民主主義です。

沖縄の「カメジロウ」の愛称で慕われた瀬長亀治郎は民主主義を信条に不屈の精神を貫きました。そして今翁長知事もその民主主義をオール沖縄の意思として受けついでいる事を今回の沖縄ツアーから学びました。

1月15日(日)午後2時から  
はこだて音楽鑑賞協会会館  
で2017年新年交流会が開  
かれ、22名の会  
員が参加しまし  
た。

祝杯をあげる  
前に、落語の高

# 平新年交流会笑って食べて飲んで



素直な心をほめた。  
法師は自分の未熟  
さを和歌の神が現  
れて罰を与えたと  
気づき自分を戒め  
た。木こりは「こ  
の滝は鼓でバチは  
あたらならない」(落  
ち語り)

参加者はこの落  
語を味わい深く聞  
き入った。誰しも  
夢で問題を解決で  
きたような経験を  
もっている。素直  
な心が夢で良き生  
き方を示すことができるとい  
う教訓であった。

## 全員が楽しくトーク

食事は会員推薦のお店の中  
華オードブル。さらに多くの  
差し入れ。パン、ぶり大根、  
卵焼き、中華風豆もやしサラ  
ダ、漬け物、ヨーグルトケー  
キ等。そして日本酒3本、焼  
酎、泡盛、お茶等の差し入れ

があり、皆大満足。  
参加者一人一人から沖縄の  
こと、原発のこと、三沢平和  
大会のこと、マイナンバーの  
こと、自分をどう輝かせたい  
か、こだわりの持った平和運

演目は古典落語「鼓ヶ滝」  
名のある歌人の法師が鼓ヶ滝  
で歌を詠み、あたりが暗くなっ

座が設けられ、  
会員の二杯亭小  
酔楽さんが一席  
を披露しました。  
婆、娘それぞれから手直しを  
されてしまう。腹立たしい思  
いをこらえて元歌より良くなっ  
ているのを認めざるを得ない。  
実はその場面は寝込んでしまっ  
た木こりが、手直しを認めた



動、そして腹の立つことなど  
などスピーチがあり、笑いが  
絶えませんでした。



川村清さんが相撲甚句  
の前歌・本歌・後歌を  
解説交えて披露



## 赤字なく年を越せました 会計担当から、ありがとうございます

百島 直子

函館平和委員会の会計を担当しています。平和委員会がその価値を認められ加入して欲しいと思われる組織であり続けるために、大いなる頑張りが必要なと、新年を迎え思う次第です。今年も宜しくお願い致します。

組織と名のつくもの、その円滑な運営に会費はとても大切ですが、何せ自由な個人加盟だしリタイア組が圧倒的多数で集金が儘なりません。たまたま何かの集会・行事で出会う会員さん達が、色々なルートを辿って私に届けてくれたり、振込用紙を使って郵便局に向いてくれたりします。会計の私に手にするまで結構時間がかかるし、さらに領収書となると新聞ルートに乗せるのが手っ取り早いので

すが月一の会議でやり取りするので会員さんに渡るのは下手すると2〜3カ月遅れになります。それでも100十数人の会員の皆さん文句も言わず協力して下さるので、今年も赤字なく年を越せました。ありがとうございます。

でも、会員が願う活動にどれだけ会費が有効に使われているかとなると課題も多いな一と思えます。いざ平和大会やら原水禁大会やらの行動に会員さんを派遣するとなると、組んだ予算ではまかなえず、手分けをしてカンパ集めに奔走しその結果次第の取り組みになっていきます。

昨年一年で5人の新会員を迎えました。今年も仲間づくりにお力をおかしく下さい。

## 私のメッセージ

函館平和委員会の元常任理

事・副会長を務めていただき、1997年に横浜市に転居された高田敞充さんから函平にお手紙と小論が寄せられました。高田さんは今「九条の会・保土ヶ谷」の代表世話人をされています。以下小論を掲載します。

最近の「かんPAIX」を拝読し、函館平和委員会が新しい会員を迎えて頑張っておられる様子がよくわかり嬉しく思いました。私の小論など入る余地は無いかと思いますが余地があればお願いします。私の名前をおぼえている人がおられて少しでも力になればと思います。

高田 敞充

横浜市保土ヶ谷区西久保町

1211ノ307

憲法改悪の策動を許さな  
いたたかいを！  
憲法に育てられ、憲法と  
ともに生きた世代の一人  
として！

高田 敞充

先の参議院選挙の結果、改憲勢力に2/3の議席を許してしまいました。憲法審査会が再作動し、改憲の具体的な中味に議論をすすめようとしています。9条守れの運動をすすめてきた私達にとつての正念場をむかえたと思つています。私は歴史の弁証法を信じます。来たるべき総選挙、そして確実にある3年後の参院選では先の参院選の教訓と成果が生かされ改憲勢力に2/3の議席を許さないたかいかいと、日本の国のあり方、国民一人一人の個人の尊厳（憲法13条）をかけたたたかいに勝利すること、そのことの重大性をつくづく感じております。

私は改めて80才を越えた自

分自身の生涯に思いを致します。昭和9年（1934）・昭和ひとけた生まれの者には、昭和16年（1941）太平洋戦争の始まった年が「国民学校」一年生で、戦争で命を捧げる少国民を育成するための

学生改革、教育制度の軍隊化の始まりでした。五年生中頃まで軍国少年として育てられたわけです。そして昭和20年（1945）の終戦、すべての面で従来への価値観の転換が行われ教育制度も大きく変わりました。昭和22年から始まった現在の6・3・3制の新学制。

私は新制度の最初の一年生として中学生になりました。校舎も机も満足にない条件の中でも、新しく生まれ変わる日本の希望、子どもながらその思いで一杯でした。そして現在の憲法施行で、全生徒に配布された文部省の「新しい憲法のはなし」は生きる方向を示してくれました。日本は、

平和国家、文化国家として生きていくのだ、物のない貧しい生活でしたが、未来は輝いていました。自由でのびのびと勉強したと思います。

こうした私達の世代は、まさに今の憲法によって育てられてきたのだと思います。このことに限りない誇りを思わずにはいられません。以来私の職業人生は、高校の社会科の教師となり「教え子を戦場に送らない」「職場に自由を・教室に真実を」を実践スローガンにして、憲法を語り、教職員組合運動・平和運動に参加しつつ憲法とともに生きてきた生涯だったと思います。「国民学校」一年生、そして「新制中学」一年生を生き、た世代、憲法に育てられ、憲法とともに生きた世代の存在理由をかけて、もう少し頑張らなければとの思いを新たにしています。